

令和 4 年 3 月の解説（週間天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、1 日から 2 日は気圧の谷の通過に伴って西日本を中心に曇りや雨の天気となりましたが、その後は中国大陸から進んできた高気圧に覆われやすかったため、ほぼ全国的に降水量が少なく日照時間が多くなり、特に東日本と西日本の降水量はかなり少なく、東日本太平洋側と西日本の日照時間はかなり多くなりました。東日本太平洋側の日照時間は平年比 135%で、統計開始以来 3 月上旬として 1 位の多照となりました。5 日には日本海を低気圧が発達しながら通過したため、関東甲信地方と東海地方では春一番が吹き、西日本では黄砂を観測した地点がありました。北日本では、6 日頃に一時的に西高東低の気圧配置が強まったほかは寒気の影響を受けにくく、平均気温は高くなりました。

中旬は、全国的に天気は数日の周期で変化し、13 日～16 日にかけて日本海から北日本を繰り返し低気圧が通過したため、北日本や東日本日本海側、西日本日本海側を中心に曇りや雨の日が多くなりました。18 日から 19 日には本州付近を低気圧が発達しながら通過したため、東日本と西日本を中心にまとまった雨となり、北日本は太平洋側でも大雪となった所がありました。このため、降水量は北日本太平洋側と東日本太平洋側でかなり多く、東日本日本海側と西日本日本海側で多くなりました。また、日照時間は、北日本でかなり少なく、東日本日本海側と西日本日本海側で少なくなりました。一方、高気圧に覆われる日が多かった沖縄・奄美の日照時間はかなり多くなりましたが、18 日には前線が通過したためまとまった雨が降りました。寒気の影響を受けにくく、東日本と西日本を中心に 13 日～16 日にかけて日本海を進む低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んだ日が多かったため、平均気温は東日本、西日本と沖縄・奄美でかなり高くなりました。特に、14 日は東日本太平洋側と西日本太平洋側を中心に夏日となった地点があり、宮崎県宮崎市では最高気温 28.1℃を観測するなど、季節外れの暖かさとなりました。東日本と西日本の平均気温はそれぞれ平年差+3.2℃、+3.7℃で、いずれも統計開始以来 3 月中旬として 1 位の高温となりました。

下旬は、全国的に天気は数日の周期で変化し、22 日には前線を伴った低気圧が本州南岸を通過して東日本と西日本を中心に雨となり、東日本太平洋側の平地でも雪となった所がありました。26 日から 27 日には本州付近を二つ玉低気圧が通過して荒れた天気や大雨となった所があり、30 日から 31 日には前線の影響で西日本や沖縄・奄美を中心にまとまった雨が降りました。気圧の谷や前線の影響を受けやすかったため、降水量は西日本と沖縄・奄美で多くなりました。また、日照時間は沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本で少なくなりました。一方、低気圧の影響を受けにくかった東日本日本海側の降水量は少なくなりました。南から暖かい空気が流れ込んだ日があったため、全国的に平均気温が高くなりました。

【3 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 7 ポイント高い 79%でした。地方別の適中率では、全国各地で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.4℃小さい 2.1℃で、九州南部を除

く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.2℃小さい2.0℃で、中国、九州北部を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は、高気圧に覆われて晴れる日もありますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して大荒れの天気となることもあります。また、日本の南海上に前線が停滞するようになり、例年ではこの時期に沖縄・奄美は他の地方よりも一足早く梅雨に入ります。この前線が本州の南岸まで北上して停滞すると、西日本や東日本でも曇りや雨の日が続くことがあります、時には大雨となることもあります。天候に左右されやすい屋外の活動や行事を準備される際は、最新の週間天気予報をご確認ください。